

■科目名			
病弱児の教育総論 Education for Children with Disease			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	3期		前
■担当教員			
深澤 美華恵			
■代表教員名及び連絡先等			
非常勤講師につき障害児学科雲井 (kumoi@edu.kagoshima-u.ac.jp)が連絡窓口となります。			
■オフィスアワー			
集中講義のため、授業時間外（休み時間、放課後等）に直接問い合わせを受け付けます。			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
病弱教育の歴史をふまえ、病弱教育の制度について学ぶ。 授業の実践記録や事例研究などにに基づき、様々な教育の場における指導の実際を学び、病気の子どもの実態と特別な教育的ニーズ及びニーズに応じた配慮事項を理解する。 医療の進歩をふまえて、通常の学級を含めた特別支援教育としての病弱教育の課題を理解する。			
■授業の到達目標及びテーマ			
病弱教育の仕組みを理解し、特別支援学校学習指導要領をふまえて病弱教育の教育課程・指導方法や指導内容の特徴を説明できる。 一人ひとりの病状や心理状態に基づく教育的ニーズの把握と、ニーズに応じた配慮事項を記述できる。 病弱教育の意義を説明することができる。			
■授業計画			
全15回の授業を遠隔形式で実施する。 1. 特別支援教育と病弱教育 2. 病弱教育の意義 3. 病弱教育の歴史 1 戦前までの病弱教育 4. 病弱教育の歴史 2 戦後の病弱教育 5. 病弱教育の現状 6. 病弱教育の制度 7. 病弱教育の教育課程と指導 8. 病弱教育の実際 9. 主な疾患と合理的配慮 1（アレルギー疾患、悪性新生物等） 10. 主な疾患と合理的配慮 2（心臓疾患、腎臓疾患等） 11. 主な疾患と合理的配慮 3（筋・骨格疾患等） 12. 主な疾患と合理的配慮 4（心身症、精神疾患等） 13. 病気の子どもの自立活動 14. 病気の子どもの指導 15. 授業の総括と確認試験			
■授業外学習（予習・復習）			
予習 1 では、つぎの2点を調べておきましょう。 都道府県をひとつ選び、 1. 病弱特別支援学校の名称・所在地・設置学部・隣接病院と児童生徒の疾病の特徴 2. 小・中学校の院内学級（病院に設置された身体虚弱特別支援学級）が設置されている病院とその小・中学校の名称 予習 2 では、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のHPで「病気の子どもの理解のために」を読んでおくことが望ましい。 復習については授業時に配布する資料をもとに既習内容を振り返ることが望ましい。			
■受講要件			
■成績の評価基準			
発表状況等授業への貢献度20%、小レポート40%、確認試験40%をめやすに評価を行う。			

■教科書・参考書

授業時に配布する資料を中心に、関連する学習指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。その他は必要に応じて適宜指示する。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

2. 教育の理念、制度、歴史等に関する理解

【A教職の理解】教育の理念を理解し、教育の制度や歴史・思想に関する基礎的な知識を身に付けている

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導，教材開発や活用，授業分析など，指導法や授業改善について理解している

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

13. 生徒指導に関する構想力

【D構想力，展開力，評価力等】個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに，積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

16. 情報収集力，分析力，活用力

【D構想力，展開力，評価力等】情報を収集し，整理・分析することを通して，その情報を活用していくことができる

アクティブ・ラーニング

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中2回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

授業形態（対面・遠隔）については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。